



スライド 72



先に、「市区町村データ」をクリックし、「データ表示」をクリックします。

スライド 73



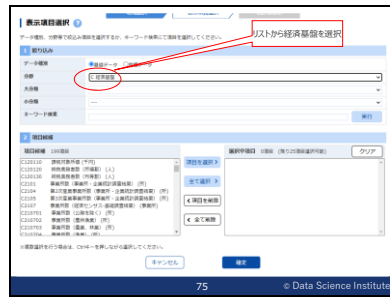
今回は特別区を除外したいので、絞り込みで「特別区」をクリックしチェックを外してから、「実行」をクリックします。

スライド 74



今回は全ての地域を対象としたいので、「全て選択」をクリックしてから、「確定」をクリックします。

スライド 75



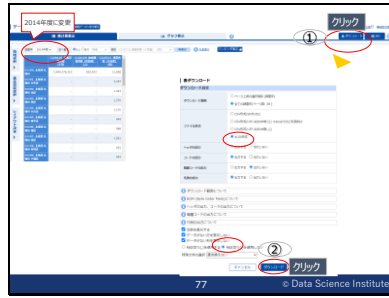
今回は各地域の1人あたりの所得額を知りたいので、「経済基盤」を選びます。

スライド 76



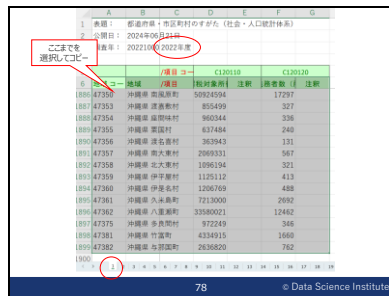
「課税対象所得」と「納税義務者数」を選んで、「項目を選択」をクリックします。スクロールを下に動かすと、「事業者数(小売業)」があるので、それをクリックして、「項目を選択」をクリックします。右側のボックスに「課税対象所得」、「納税義務者数」、「事業者数(小売業)」が入っているのを確認して、「確定」をクリックします。

スライド 77



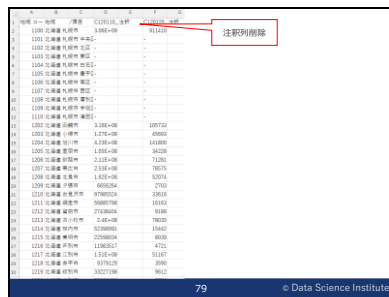
右上の「ダウンロード」をクリックし、「XLSX形式」にし、「桁区切りを使用しない」をクリックし、「ダウンロード」をクリックします。このとき、ダウンロードは時間がかかるので、少々お待ちください。

スライド 78



ダウンロードされたファイルを開き、「シート1」のデータをコピーし、新しいブックに貼り付けます。

スライド 79



貼り付けた先でデータの加工をします。元のデータで加工をせずに、元データからはデータをコピーして使うと良いです。「注釈」の列が不要ですので、削除します。

スライド 80

公開日: 2024年09月21日  
調査年: 2014100(2014年度)

| 地域コード | 地域名      | 世帯数      | 人口数   | 世帯数(注) | 人口数(注) |
|-------|----------|----------|-------|--------|--------|
| 47209 | 沖縄県 那覇市  | 30891205 | 12033 | 294    | 294    |
| 47248 | 沖縄県 与那原町 | 15204046 | 1624  | 142    | 142    |
| 47350 | 沖縄県 那覇原町 | 34388917 | 13066 | 250    | 250    |
| 47353 | 沖縄県 読谷郡  | 648378   | 269   | 8      | 8      |
| 47354 | 沖縄県 読谷郡  | 704822   | 278   | 19     | 19     |
| 47355 | 沖縄県 読谷郡  | 473543   | 189   | 8      | 8      |
| 47356 | 沖縄県 読谷郡  | 290556   | 127   | 6      | 6      |
| 47357 | 沖縄県 読谷郡  | 1258888  | 399   | 13     | 13     |
| 47358 | 沖縄県 読谷郡  | 920325   | 284   | 7      | 7      |
| 47359 | 沖縄県 読谷郡  | 840547   | 359   | 18     | 18     |
| 47360 | 沖縄県 読谷郡  | 982456   | 422   | 21     | 21     |
| 47361 | 沖縄県 読谷郡  | 5776237  | 2420  | 111    | 111    |
| 47362 | 沖縄県 読谷郡  | 1258562  | 3384  | 155    | 155    |
| 47375 | 沖縄県 読谷郡  | 637216   | 255   | 13     | 13     |
| 47381 | 沖縄県 読谷郡  | 2976846  | 1268  | 58     | 58     |
| 47382 | 沖縄県 読谷郡  | 1184334  | 474   | 28     | 28     |

続いて、元のデータがあるファイルの「シート9」をクリックして、一列だけを選択してコピーします。

スライド 81

| 地域コード | 地域名         | 世帯数      | 人口数    | 世帯数(注) | 人口数(注) |
|-------|-------------|----------|--------|--------|--------|
| 1100  | 北海道 札幌市     | 3056382  | 81141  | 3100   | 7999   |
| 1101  | 北海道 札幌市 中央区 | -        | -      | -      | 1413   |
| 1102  | 北海道 札幌市 南区  | -        | -      | -      | 1370   |
| 1103  | 北海道 札幌市 西区  | -        | -      | -      | 1110   |
| 1104  | 北海道 札幌市 北区  | -        | -      | -      | 945    |
| 1105  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 588    |
| 1106  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 622    |
| 1107  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 1061   |
| 1108  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 594    |
| 1109  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 558    |
| 1110  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 2989   |
| 1200  | 北海道 旭川市     | 31445368 | 138723 | 31800  | 7989   |
| 1201  | 北海道 旭川市     | 12672644 | 45693  | 1380   | 7466   |
| 1202  | 北海道 旭川市     | 47901384 | 181600 | 7466   | 7466   |

先ほどのブックにデータを貼り付けます。貼り付けたあとは、一人あたりの所得を算出したいので、列を挿入し、スライドのように計算式を入れます。

スライド 82

| 地域コード | 地域名         | 世帯数      | 人口数    | 世帯数(注) | 人口数(注) |
|-------|-------------|----------|--------|--------|--------|
| 1100  | 北海道 札幌市     | 3056382  | 81141  | 3100   | 7999   |
| 1101  | 北海道 札幌市 中央区 | -        | -      | -      | 1413   |
| 1102  | 北海道 札幌市 南区  | -        | -      | -      | 1370   |
| 1103  | 北海道 札幌市 西区  | -        | -      | -      | 945    |
| 1104  | 北海道 札幌市 北区  | -        | -      | -      | 588    |
| 1105  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 622    |
| 1106  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 1061   |
| 1107  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 594    |
| 1108  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 558    |
| 1109  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 2989   |
| 1110  | 北海道 札幌市 東区  | -        | -      | -      | 7989   |
| 1200  | 北海道 旭川市     | 31445368 | 138723 | 31800  | 7989   |
| 1201  | 北海道 旭川市     | 12672644 | 45693  | 1380   | 7466   |
| 1202  | 北海道 旭川市     | 47901384 | 181600 | 7466   | 7466   |

すべての行で計算をさせます。これで各市町村の一人あたりの所得額が算出できました。

スライド 83



一人あたりの所得額で並び替えを行うと、一人あたりの所得額が大きい市町村がわかります。そのとき、同時に小売業の事業所数がわかります。

スライド 84



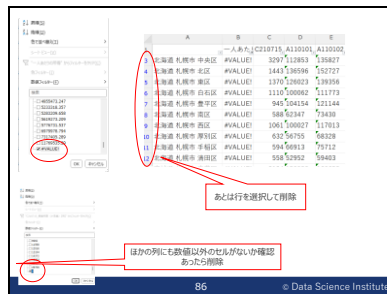
先ほどのデータから、一人あたりの所得額が大きい市町村および小売業者の各市町村の数が分かったので、どこで小売業をだすかを考えても良いですが、小売業数は各市町村の人口の影響を受けているかもしれないので、各市町村の人口をe-Statから取得します。その場合は、先ほどと同様、e-Statの最初の画面にて「地域」→「市町村」→「データ表示」として、スライドのように、今度は「人口・世帯」を選んで、男女の総人口を選択し、ダウンロードをします。

スライド 85



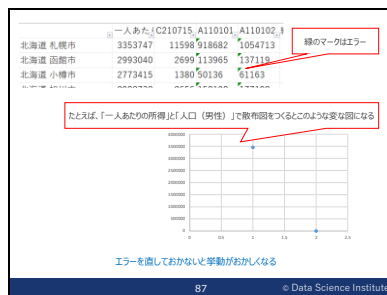
ダウンロードを終えたら必要な列だけをコピーして、ブックに貼り付けます。これからしっかり分析をしていくため、邪魔なデータを削除していきます。その際にフィルタを使うと便利です。

スライド 86



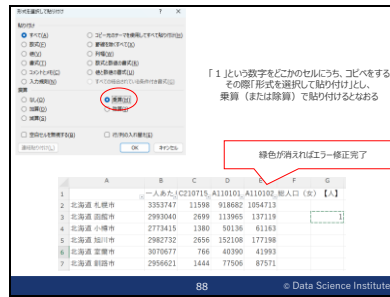
フィルタを使って、変なデータがあるところのみを表示し、その行を削除していけば、邪魔なデータが消されたデータだけになります。

スライド 87



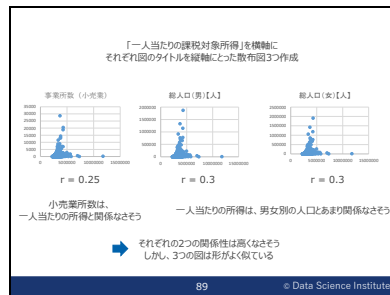
邪魔なデータが消えましたが、エラーになっている数値の部分があります。これをそのまま使用して分析すると思わぬエラーがでますので、緑のマークのセルのエラーを直します。

スライド 88



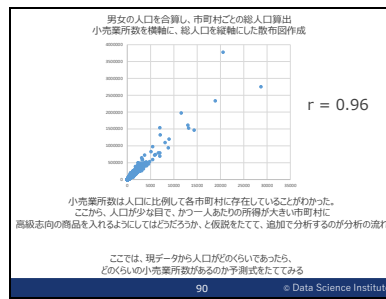
今回は数値データが文字として認識されているようなので、どこかのセルに1を打って、その1をコピーして、緑のマークのセルを選択して、「形式を選択して貼り付け」にし、「乗算」または「除算」にして貼り付けると緑のマークが消えます。

スライド 89



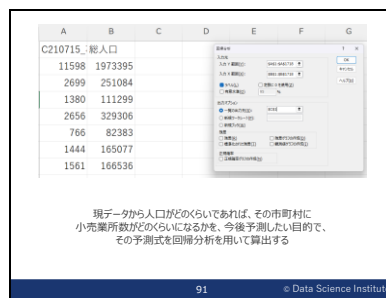
「一人あたりの所得額」と、それぞれ「小売業所数」、「男性の総人口」、「女性の総人口」で散布図を作成すると、同じような形になります。これはつまり、論理的に考えるとA（一人あたりの所得額）とB（小売業）の関係の形と、AとC（総人口）の形が似ているので、それはすなわち、BとCの関係は近い関係かもしれないと考えることができます。

スライド 90



実際に、男女の人口を足し合わせて「総人口」という列を作成し、それと「事業所数」で散布図を作ると、強い関係性がありそうな散布図ができます。今回は回帰分析を使いたいのので、人口がどのくらいあったら、どのくらいの小売業所数があるのかの予測式を作ってみます。

スライド 91



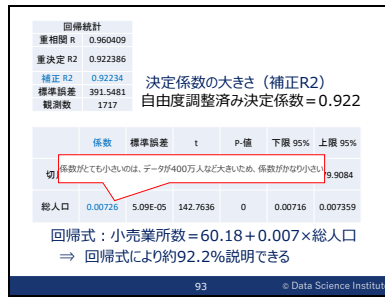
「事業所数」と「総人口」の2列を新しいシートに貼り付けて、「データ分析」から「回帰分析」を選択し、「Yに事業所数」、「Xに総人口」を選択し、回帰分析を実施します。

スライド 92



とても高い精度で、総人口から小売業所数が分かり、今後総人口から小売業所数を予測できるようになりました。実際に各市町村の人口を X に入れて、小売業数を予測、実際に小売業数が、予測より少ない市町村があれば、人口に対して少し小売業数が少ない市町村が発見でき、その市町村にて小売業を開始すれば、競合他社が多すぎるというリスクは回避できます。

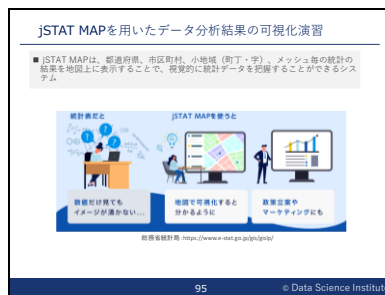
スライド 93



スライド 94



スライド 95



スライド 96



スライド 97



jSTAT MAPではログインできるようにしているか否かで出来ることに違いありますので、ログインして使えるようにしておく便利です。

スライド 98



先ほど小売業と広い定義でしたが、今回はより明確にホームセンターとしてまずはe-Statでどこの地域で新規店舗を立ち上げるかを決めます。

スライド 99



検索から使用する場合は、上の「選択条件」に条件を追加していくことで、欲しいデータを表示させます。

スライド 100



今回はまず新規ホームセンターをどこの都道府県で立ち上げるかを決めるので、ホームセンターが選択条件に入っているうえで、下の「都道府県」をクリックします。

スライド 101



その結果、先ほどはデータが三種類ありましたが、検索結果が1つに絞られたので、項目をクリックします。

スライド 102



そうするとまたどのデータを表示するのか決められるので、「販売額」と「店舗数」をクリックし、「商業動態統計調査」をクリックします。

スライド 103



「月次」というデータがあるので、それをクリックします。

スライド 104



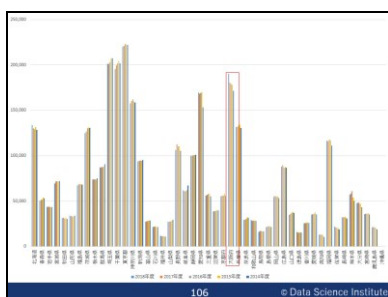
色々な統計表が表示されますが、その中のホームセンター販売の「DB (データベース)」をクリックします。

スライド 105



各都道府県で店舗数がどうなっているのかを調べたいので、表章項目で「店舗数」が入っていることを確認して、「ダウンロード」で全てダウンロードします。そうすると、スライドのように販売額と店舗数がダウンロードされます。

スライド 106



各都道府県の各年度における店舗数で棒グラフを作成すると、大阪府だけ、増加傾向であることがわかります。2018年度までのデータですが、増加傾向であるということは、新規店舗を出しても良いかもしれません。減少になっている場合は、そこに新規店舗を出すリスクが高いと思われるので、変化なしか増加傾向のところにとしようとして今回は決めます。



スライド 110



「統計地図作成」の「統計グラフ作成」を選択し、「国勢調査」、「各市町村」、「男女別人口」を選び、右側のチェックを全ていれ、「指標選択」をクリックします。

スライド 111



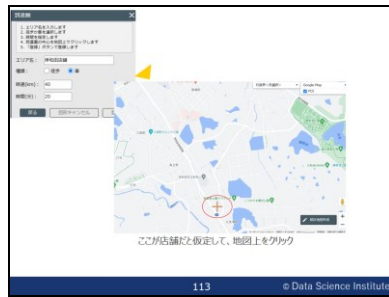
「集計単位」を「市区町村」とし、「画面表示範囲」をクリックして、「集計開始」をクリックすると、画面表示範囲の細かい地域での人口分布が見れます。赤いところが人口が多いので、どうやら岸和田市の人口が多いようにみえるので、岸和田市にて新規店舗を出すこととします。

スライド 112



岸和田市で新規店舗を出せるところを調べてみたら、候補地が選ばれました（今回この候補地は分析結果ではなく岸和田市の不動産に連絡して得た情報だと仮定します）。その候補地の周辺の人口がどうなっているかをjSTAT MAPで表示していきます。

スライド 113



画面の位置が指定された候補地だ  
としたときに、ここを中心に車で  
20分で来られる範囲を表示させ  
て、その範囲の人口を出していき  
ます。

スライド 114



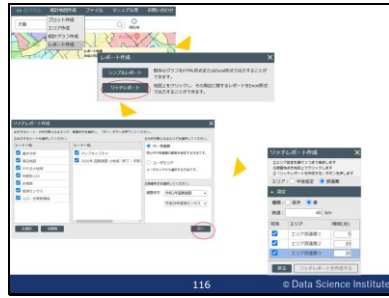
思いのほか広い範囲になりました。  
この範囲は、時速40キロで20  
分で来られる範囲としましたが、  
あくまで目安程度なので、日中の  
混む時間や信号で結構時間が変わ  
るので、範囲のギリギリから今回  
の店舗に来る場合は40分程度かか  
る可能性が考えられますので、目  
安程度です。

スライド 115



店舗の周辺は人口が少ないことが  
分かりましたが、すぐその人口  
が多いです。色々な考察がここで  
可能です。

スライド 116



実際に店舗の周辺の人口分布の細かいところが知りたいので、リッチレポートを使用して、画面に色分け表示だけでなく、実際にどのくらいの人が住んでいるかをエクセルデータで出してみます。

スライド 117

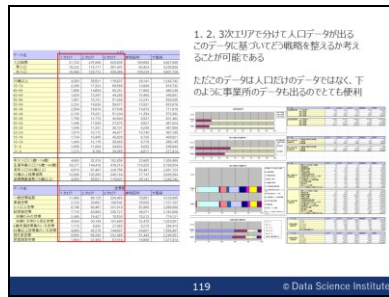


スライド 118



ダウンロードできたデータでは、小円、中円、大円としてデータが出せました。この円はそれぞれ先ほど選んだ、エリア1（車で5分）、エリア2（車で10分）、エリア3（車で20分）で分けてデータが出せました。

スライド 119



年齢別のデータで1, 2, 3とエリアごとで算出されたので、実際にこの候補地で新規店舗を出しても大丈夫かどうか、出すならばどの年齢層が多いのかを知ることで、どんな商品を取り扱うのが良いのかを考察することができます。またその地域の事業所数も出るなので、競合他社がどのくらいいるのかも調べられます。

スライド 120

